

整理番号	111	事業名〔地区名〕	補助事業(ダム) 〔千五沢ダム〕	全体事業費	14,500百万円	採択年度	H8	完成目標年度*	H35	担当部(局)課名	土木部 河川整備課
------	-----	----------	---------------------	-------	-----------	------	----	---------	-----	----------	-----------

※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	前回評価時(平成25年度)から5年経過	前回評価時の対応方針	委員会からの提言:見直し継続、付帯意見等:有り、県の対応方針:見直し継続
--------	---------------------	------------	--------------------------------------

1 事業の概要

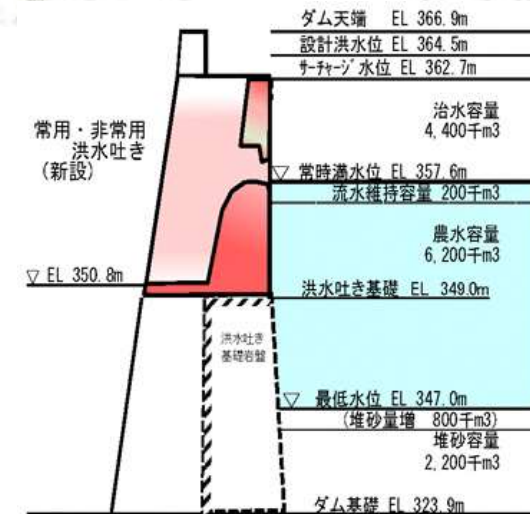
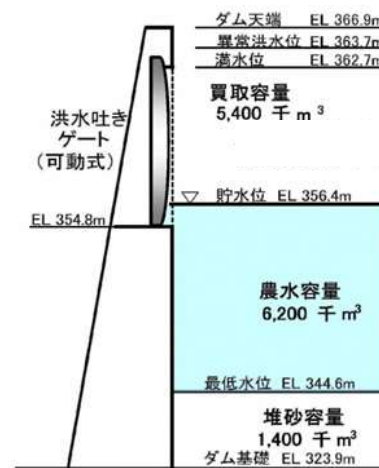
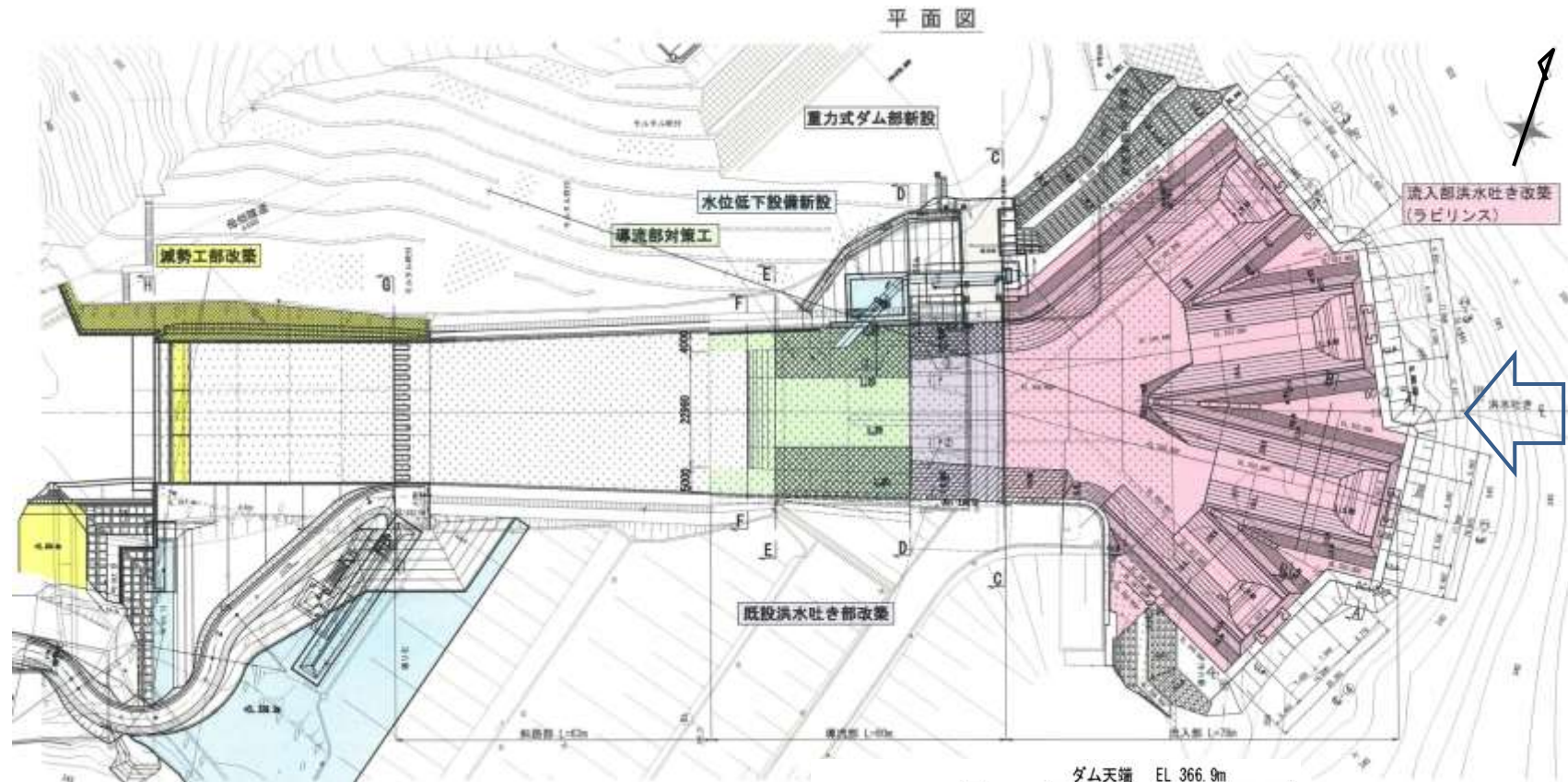
意見内容:コスト縮減に努めつつ、効果的な事業推進を図ること。

県の対応:施工方法の効率化を図るなど、コスト縮減に努め、効果的に事業を進めます。

千五沢ダム再開発事業は、かんがい専用ダムに治水機能を付加するため、既設洪水吐きの改築を行う。

- 洪水調節:千五沢ダム地点の計画高水流量250m³/sのうち、130m³/sの洪水調節を行う。
- 既得取水の安定化:河川環境保全等のため、流量の確保及び既得取水の安定化を行う。

石川町位置図



2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行済額	年度別執行額			30年度見込
当初	今回 (前回差)		～27年度	28年度	29年度	
13,900	14,500 (+600) 4.3%増	8,710	6,010	1,200	1,500	1,410

(1)現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- ・ダムの改築工事は、平成26年度より開始した。
- ・かんがい用水供給のため、4月から9月までは貯水位を維持する必要がある、貯水池内の工事期間は、10月下旬から翌3月下旬までの約5ヶ月間として計画していた。
- ・平成28年に計画規模以上の渇水が発生し、春・夏期に必要なかんがい用水を確保できない事態となり、工事の施工期間を見直したため、事業の完成目標年度を2カ年延長せざるを得なくなった。
- ・上記の理由に伴う仮設工の存置期間の延長により、事業費が増となった。

(2)期待される効果 [評価(A)・B・C]

- ・現在の千五沢ダムは、かんがい専用ダムで洪水調節機能が無いため、本事業により、洪水調節機能を付加した多目的ダムとする事で、洪水被害の軽減を図ることが出来る。

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価(A)・B・C]

- ・北須川と今出川の合流部に位置する石川町市街地及び下流域は、人家が密集し資産が集中していることから、洪水被害軽減のための治水対策が強く望まれている。

(4)評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

評価指標	採択時(H8)	前回(H25)	完成時(H35)	備考
浸水面積	124ha	124ha	77ha	

【その他参考となる数値】

○近年の主な洪水被害

発生日	事由	該当市町村	浸水範囲	浸水戸数	総雨量
S41.9.24～25	豪雨	石川町	石川町役場	不明	193.0mm
S61.8.2～10	台風10号	石川町、玉川村、鏡石町	浸水面積 470ha	179戸	234.8mm
H10.8.25～31	豪雨	石川町、玉川村、鏡石町、矢吹町	浸水面積 270ha	30戸	367.3mm
H14.7.8～12	梅雨、台風8号	石川町、玉川村	浸水面積 106ha	0戸	162.4mm
H23.9.15～23	台風15号	石川町	浸水面積 19.9ha	1戸	247.0mm

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価(A)・B・C]

$$B/C = \frac{713.8 + 4.0 + 6.4}{188.0 + 12.7} = 3.61 \text{ (前回値3.34)}$$

- ・[B]ダム事業における総便益(氾濫防止効果便益+既得取水の安定化・河川環境保全効果便益+残存価値)
- ・[C]ダム事業に要する総費用(ダム改築費+維持管理費)

- ・仮設工法の変更及び工期延長に伴う仮設工等に要する費用が増加した。
- ・評価基準年度の見直しにより、資産価値が増加したことから氾濫防止便益が増加した。

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

【コスト削減の取組】

- ・空港へ運搬する掘削発生土の一部を運搬距離が近いダム下流の浄水場予定地及びダム堤体下流側へ運搬するなど、施工方法の効率化を図り、コスト削減に努める。

【代替案の検討状況】

- ・今出川流域の治水対策については、「千五沢ダム改築」+「北須川・今出川の改修」の組み合わせが最も効果的で経済的であることから、現案以外の方法は考えられない。

3 評価

(1)県の対応方針案

(2)理由

事業継続

事業目的に対し、洪水被害の軽減を図る等、事業採択時と同様の発現効果が見込まれることから、重点的に整備を進める必要がある。